

会議の要旨

会議の名称	平成30年度第3回川越市地域包括支援センター等運営協議会
開催日時	平成31年2月19日(火) 14時00分 開会 ・ 15時45分 閉会
開催場所	ウエスタ川越 2階 会議室1
会長氏名	齊藤正身会長
出席委員氏名	望月副会長、井岡委員、岡持委員、本間委員、小川委員、岩田委員、田中委員、渡邊委員、入江委員、大友委員、原委員、岡野委員、夏目委員、師岡委員 (15名)
欠席委員氏名	
事務局職員氏名	介護保険課 小高副部長、貫井副課長、鍛冶副主幹、野村主査 健康づくり支援課 嶋崎課長、佐藤副主幹 地域包括ケア推進課 荻野課長、富田主幹、佐藤副主幹、小山主査、吉川主査
オブザーバー	川越市地域包括支援センターキングス・ガーデン 安原氏 〃 小仙波 渡邊氏 〃 連雀町 石井氏・佐藤氏(機能強化型) 〃 よしの 寄藤氏 〃 たかしな 原島氏 〃 みずほ 佐々木氏 〃 だいとう 赤沼氏 〃 かすみ 高梨氏 〃 みなみかぜ 高橋氏 (9包括10名)
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 報 告 (1) 平成30年度第2回地域包括支援センター等運営協議会要旨について (2) 認知症初期集中支援チームの活動状況について (3) 地域包括支援センターよしの分室みなみふるやの移転について (4) 地域包括支援センター連雀町・在宅医療拠点センターの「すくすく(子育て安心施設)」への移転について (5) 地域包括支援センター運営事業評価について (6) 地域密着型サービス事業者の選定等について 4 議 事 (1) 平成31年度地域包括支援センター運営方針(案)について (2) 予防給付ケアプラン委託居宅介護支援事業所の承認について

	<p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>
配布資料	<p>1 次第</p> <p>2 資料1 平成30年度第2回地域包括支援センター等運営協議会要旨</p> <p>3 参考資料 地域リハビリテーション支援体制</p> <p>4 資料2 認知症初期集中支援チームの活動状況</p> <p>5 資料3 地域包括支援センターよしの分室みなみふるやの移転について</p> <p>6 資料4 「地域包括支援センター連雀町」及び「在宅医療拠点センター」の「すくすくかわごえ（子育て安心施設）」への移転について（案）</p> <p>①参考資料1 川越市まち・ひと・しごと創生総合戦略</p> <p>②参考資料2 「川越市在宅医療拠点センター」の概要について</p> <p>7 資料5 市独自の評価と全国共通の評価の比較</p> <p>①資料5-① ≪市独自の評価≫ ≪全国共通の評価≫</p> <p>②資料5-② 平成30年度地域包括支援センター運営事業評価の実施について</p> <p>③資料5-③ 平成30年度川越市地域包括支援センター運営事業評価表（自己評価）</p> <p>④資料5-④ ≪全国共通の評価≫（平成29年度地域包括支援センターの取組状況：各センターと全国平均の比較）</p> <p>8 資料6 地域密着型サービス事業者の選定等について</p> <p>9 資料7 平成31年度地域包括支援センター運営方針（案）</p> <p>10 資料8 予防給付ケアプラン委託居宅介護支援事業所の承認について（平成30年度・新規）</p> <p>（当日配付資料）</p> <p>1 （チラシ）地域の支え合い、助け合い活動や居場所づくり等情報交換会</p> <p>2 （チラシ）第6回医療介護フォーラム</p>

議 事 の 経 過

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告

- ・傍聴人の確認 〈傍聴人なし〉

(1) 平成30年度第2回地域包括支援センター運営等協議会会議要旨について

【資料1】を基に事務局より報告・説明する。

・(4ページ 下から4行目) 地域リハビリテーション・ケアサポートセンターに事業を依頼し、無理ならば機能強化型地域包括支援センターに確認することについて
⇒各地域包括支援センターに地域リハビリテーション・ケアサポートセンターの活用方法について確認したところ、活用方法がよくわからないという現状がわかった。現在地域リハビリテーション・ケアサポートセンター・機能強化型地域包括支援センター・市の3者で、役割や事業について話し合いを進めている。

・(7ページ 上から8行目) 国の評価方法についての解釈を包括で確認・統一したらどうかについて

⇒1月15日センター長会議で点検・項目の解釈を確認し、不明点については埼玉県に確認した。詳細については(5)地域包括支援センター運営事業評価で報告する。

【参考資料】を基に、地域リハビリテーション・ケアサポートセンターについて会長より報告する。

・埼玉県は地域リハビリテーション・ケアサポートセンターを通してセラピストを派遣する仕組みを作っているので、第1選択として地域リハビリテーション・ケアサポートセンターの利用を考えて欲しい。一度、第1選択で地域リハビリテーション・ケアサポートセンターを利用して、実際はどうかを検討する必要があるのではないか。

(2) 認知症初期集中支援チームの活動状況について

【資料2】を基に事務局より報告する。

意見・質疑等

〈委員〉スライド7の支援対象者の概要によると、認知症の診断を受けていない者が60%いるが、この者は活動の対象になるのか。

〈事務局〉チームが支援を開始した時点では認知症の診断を受けていない者であり、明らかに受診は必要だが、受診に結びつかず診断に至っていないケースが殆どである。

〈委員〉スライド7の終結までの期間について、1ヶ月で終結を迎える者がいる一方、6ヶ月かかる者もいるが、その差について教えて欲しい。

〈事務局〉1ヶ月で終結を迎える者については、訪問しアセスメントをした中で医療機関受診や介護保険に繋がった例が多い。6ヶ月かかる者については医療機関受診に時

間を要したり等支援が長期化したケースである。

〈委員〉スライド4にある「モニタリング」「検証・分析」についての報告は後日に行われるのか。

〈事務局〉モニタリングについては3～6ヶ月後にチーム内で状況を確認している。次回、終了後からどうなったか、についての結果の提示を考えたい。

〈会長〉介護保険サービスに繋がったら終了、またはチーム支援を利用したら終了ではなく、その後の生活を見据えて活動して欲しい。

(3) 地域包括支援センターよしの分室みなみふるやの移転について

【資料3】を基に事務局より報告する。

意見・質疑等

〈会長〉担当圏域を見ると芳野地区より南古谷地区の方が人口が多いので、南古谷地区に拠点を置く方が良いのではないかという考え方もある。

〈事務局〉今後、名称やあり方を検討する。

(4) 地域包括支援センター連雀町・在宅医療拠点センターの「すくすく（子育て安心施設）」への移転について

【資料4】【参考資料1】【参考資料2】を基に事務局より報告する。

意見・質疑等

〈会長〉具体的な場所を教えて欲しい。

〈事務局〉本川越駅付近に建設予定。現在はコインパーキングになっている。

〈会長〉在宅医療拠点センターは川越市医師会の中にあるが、今後、地域包括支援センター連雀町と同一施設に置くことで、医療面での機能強化に繋がっていったら良い。

(5) 地域包括支援センター運営事業評価について

【資料5】【資料5-①】【資料5-②】【資料5-③】【資料5-④】を基に事務局より報告する。

意見・質疑等

〈委員〉資料5-②3ページの2-5「地域におけるネットワーク活用」について、他の項目と比べて低い理由は何か。

〈事務局〉2層生活支援コーディネーターが動き出し、社会福祉協議会と地域包括支援センターのやりとりが始まったばかりと言う点が、評価に現れていると確認している。

〈委員〉資料5-③を見ると、いくつかの地域包括支援センターの取り組みに生活支援コーディネーターとの連携を図ることが挙げられている。地域住民に話す際、地域包括支援センターで関わっている方についての状況は元気な高齢者は知らないことが多いので、地域包括支援センターと生活支援コーディネーターの具体的な活動の話をするとうわりやすいのではないか。

〈委員〉現在見直している介護予防サポーター養成講座の中に、支え合いや第2層生活支

援コーディネーターの活動のコラム等の内容を組み込んだらいいのではないかと考えている。

<会長>地域ケア会議の上層会議がないのは問題だと感じている。課題を市で受け止めて、次の一手に繋げて欲しい。地域包括支援センターは事業評価を行い頑張っているで、市でも取り組んで欲しい。

<委員>資料5-②4ページの「権利擁護の周知」について、他の項目に比べて低いと感じる。周知活動は大切なので、法人後見事業で実績のある社会福祉協議会や埼玉県社会福祉士会等の関係機関と連携しながら周知活動をして欲しい。

<会長>いろいろと意見は出ているが、市と国の事業評価をどうするかについての検討が必要である。国の事業評価はやらなくてはいけない評価なので、市の事業評価をどうするかを検討が大切であり、市としてはどのように考えているのか。

<事務局>他市の状況や、それぞれの事業評価の目的等を踏まえて今後どうするかを考えていきたい。

<会長>国と市の事業評価は目的が異なるという説明だったが、自分は同じだと考える。全国の事業評価にプラスして足りない部分を市の事業評価項目を加えるのが良いのではないか。

<委員>全国共通の国の評価を基に、市が今まで行っている評価項目のうち、実務に反映しやすいものを組み合わせたらどうか。

<委員>評価項目が多くて時間が取られるのではないか。地域包括支援センター長の意見を伺いたい。

<包括>市の事業評価は実情に合った項目のため自己評価がしやすい。市の事業評価は4段階評価に対し国の事業評価は〇×の2段階なので難しいと感じている。国の事業評価については、地域包括支援センター間ですり合わせた結果を、今回の資料として出ている。

<包括>事業評価の回数が増えると、その分時間がかかるのは事実としてある。

<会長>市の評価で「できている」「ある程度できている」の違いを教えて欲しい。

<事務局>各地域包括支援センターの主観で評価している状況である。事業等の振り返りの機会になっていると考えている。一方、国の事業評価は実施時期が年度の前半にあるので、来年度予算や体制に反映できるものになっている。今後、地域包括支援センター長と話し合い、効果的な事業評価を考えていきたい。

<会長>事業評価の目的を明確にして検討する必要がある。今後、事業評価結果が公開されるのであれば、分析できる内容にした方が良くと思う。また、市の事業評価が主観的な評価で良いのかと疑問を持つ。事業評価項目について、もう少し調整をして欲しい。市と地域包括支援センターで話し合いを続けて欲しい。

<委員>資料5-②の事業評価は4段階でわかりにくいので、3か5段階（奇数）の方が評価をしやすいのではないか。

<会長>評価のための評価にならないように気をつけて、今後検討して欲しい。

(6) 地域密着型サービス事業者の選定等について

【資料6】を基に事務局より報告する。

意見・質疑等

〈会長〉運営法人として「メディカル・ケア・プランニング株式会社」「メディカル・ケア・サービス株式会社」が目立っているが、同系列の法人なのか。

〈事務局〉異なると記憶している。川越市内や他市町村で実績のある法人であり、適切に運営していることを確認している。

〈会長〉事業所が増えることは良いが、地元の法人が活動して欲しいと考える。また、指定を行う際は慎重に対応して欲しい。

4 議事

(1) 平成31年度地域包括支援センター運営方針（案）について

【資料7】を基に事務局より説明する。

承認される。

〈委員〉方針は賛成だが、高齢化が進み自治会に加入する人が減っている現状がある。地域包括ケアシステムの推進を考えると、自治会に加入しないことで情報不足にならないよう、必要な人に情報が届くように市全体としても考えて欲しい。

〈事務局〉自治会については主管ではないが、市内部でも検討している。市として総合的に考えている。

〈会長〉自治会と地域包括支援センターの関係や、地域包括支援センターが自治会との関係をどのように築いているか、その取り組みについてを教えて欲しい。

〈包括〉自治会会長会や自治会総会で各自治会長に活動内容を伝え挨拶し、地域包括支援センターをPRしている。また、地区ごとに3ヶ所で開催している地域会議の中で一緒に活動をしている。

〈包括〉5つのブロックに分かれて圏域ケア会議を開催し、高齢者を巡る問題を議論している。会議のメンバーとして自治会長や民生委員、地域の介護事業所がいる。また、地域によっては福祉懇談会を開催し、意見交換を行っている。地域会議の中にある地域福祉委員会にも参加し高齢者について議論している。

〈委員〉自治会でいもっこ体操をしている高齢の方から、自治会からの退会の問題を良く聞く。

〈会長〉運営協議会のその他の中で地域の問題として取り上げても良いかと思う。また、評価項目の中に加えても良いと考える。

〈委員〉自分も介護の経験者ではあるが、地域包括支援センターの役割を知るまでに時間がかかった。また、地域包括支援センターの存在を知っている人であっても、個別にどんな支援をしてくれるのかについて、わからない人もいる。個別支援について、もっと力を入れてくれると利用しやすくなるのではないか。

〈会長〉今の人員でどこまで対応できるかは疑問ではあるが、課題のある方の個別対応を行うことは大切である。

(2) 予防給付ケアプラン委託居宅介護支援事業所の承認について

【資料8】を基に事務局より説明する。

承認される。

5 その他

〈委員〉

- ・(チラシ) 地域の支え合い、助け合い活動や居場所づくり等情報交換会の案内。

〈事務局〉

- ・(チラシ) 第6回医療介護フォーラムの案内。
- ・次回の開催日程が決まり次第伝える。

〈健康づくり支援課〉

- ・川越市市民健康講演会の案内。

6 閉会

